

【社会】 <小学校 第5学年>

1 結果のポイント

- 「わたしたちの生活と食料生産」について、農家の人々の工夫や努力についての理解をみる問題や食料品の安全性について考える問題の正答率は、80%を上回っている。また、資料の数値を活用して、グラフにあらわす問題の正答率は、75%を上回っている。
- 「わたしたちの生活と工業生産」について、「自動車工場」の特徴や働く人々の様子や、工業と環境保全の取組とのかかわり、工業地帯の分布や日本の貿易についての理解をみたり、考えたりする問題の正答率は、80%を上回っている。
- 分布図やグラフが一つである場合の数値や変化を読み取る問題の正答率は、70%を上回っているが、複数のグラフから、数値や変化を読み取る問題は、60%を下回っている。
- 「わたしたちの生活と情報」について、放送番組を作る過程を資料から読み取る問題や、放送局で働いている人の工夫や努力を考える問題、インターネットの活用についての理解をみる問題の正答率は、90%程度である。
- 「読図」について、縮尺を活用して、実際の距離を計算する問題の正答率は60%を下回っている。

2 結果の分析

(1)「知識・理解」の力をみる問題の例

<問題> 2の3

2 3 まり子さんは、これからの自動車開発についてレポートにまとめました。このレポートにタイトルを付けるとすると、どんなタイトルがよいと思いますか。ア～エから一つ選び、その記号を の中に書きましょう。

ア デザインを工夫した車の開発 イ 安全性の高い車の開発
ウ 環境にやさしい車の開発 エ 山や海に出かけるのに便利な車の開発

まり子の自動車開発レポート <input style="width: 150px;" type="text" value="タイトル"/>	
★ハイブリッドカーの誕生	ガソリンの使用量や排出する二酸化炭素の量は、かなりへっているよ。
★電気、燃料電池で走る車の開発に挑戦	排出ガスを全然出さない車や水素を燃料に使い、水しか排出しない車が多く走るようになったらいいな。
★部品のリサイクル	たくさんある部品もリサイクルできるよう工夫しているよ。

<結果> 2の3 正答率 90.4% (正答…ウ)

<分析>

2の3は、「これからの自動車開発についてのレポートの内容から、環境にやさしい車の開発が行われていること」の理解をみる問題である。正答率は、90%を上回っている。「知識・理解」をみる他の問題の正答率も、すべて80%を上回っていることから、基本的な事項についてはおおむね理解できていると考えられる。

2の1 (1)「自動車の組み立て工程」、1の2「米づくりにおける農家の人々の工夫や努力」などの理解をみる問題の正答率が高いのは、自動車工場等の見学や調査、総合的な学習の時間などにおける米づくり体験との関連を図った学習など、具体的な活動を通して、児童が実感をもって理解できるように努めた成果と考えられる。今後も、見学や調査、作業的な学習を充実させるとともに、それらの活動を通して理解させたい社会的事象の意味や働きを明確にして指導を行うことが大切である。

また、2の3は、「環境保全」という今日的な課題についての理解をみる問題であるが、「インターネットの活用 (情報活用)」という今日的な課題についての理解をみる問題である5の2の正答率も、90%を上回っており、今日的な課題についても理解されていると考えられる。

(2)「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

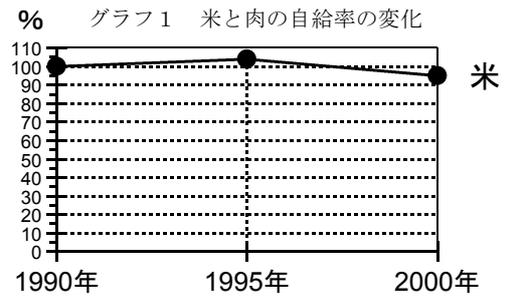
<問題> 1の3 2の2(2)

- 1 3 一郎さんは、日本の食料自給率について調べ、米と肉の自給率の変化をグラフ1にあらわすことにしました。表1をみて、肉の自給率の変化をグラフ1に書きましょう。

表1 食料自給率の変化

年	1990年	1995年	2000年
米	100%	104%	95%
肉	70%	57%	52%

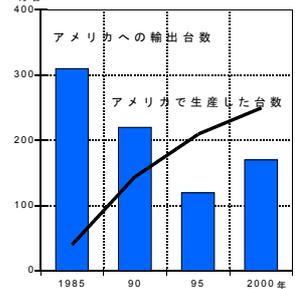
(農林水産省食料需給表より)



- 2 (2) まり子さんは、アメリカと日本の自動車の生産と輸出について調べました。まり子さんが、グラフ1から読み取ったア～エから最も適切なものを一つ選び、その記号を の中に書きましょう。

- ア 1985年と2000年を比べると、アメリカで生産した台数は約200万台へり、アメリカへ輸出した台数は約2分の1になっている。
 イ 1985年から2000年の間に、アメリカで生産した台数も、アメリカへ輸出した台数も増え続けている。
 ウ 1985年から2000年まで、アメリカへ輸出した台数は、5年ごとに約100万台ずつへっている。
 エ アメリカで生産した台数は、年々増え続け、1985年と2000年を比べると、およそ5倍に増えている。

グラフ1 アメリカと日本の自動車の生産と輸出



- <結果> 1の3 正答率 78.2% (正答 略)
 2の2 (2) 正答率 58.8% (正答…エ)

<分析>

1の3「食料自給率をあらわしている表の品目の数字を基に、食料自給率の変化をグラフにあらわすことができるか」をみる問題の正答率は、70%を上回っており、統計資料から読み取ったことを基に、資料を作成する力は身に付いていると考えられる。無解答が5.5%であることから、今後も、指導計画のなかに自ら資料を作成する活動を意図的に位置付け、読み取ったことを表現する技能や意欲を高めていく必要がある。

2の1 (2)「文章資料と写真資料をつないで活用することができるか」をみる問題の正答率は、82.8%であり、過年度の類似問題の正答率(平成16年度42.1%、平成17年度73.3%)を上回っている。これは、文章資料や写真資料の読み取り方を示した掲示物を教室に位置付け、それらを繰り返し活用して、学び方の定着を図ってきた成果であると考えられる。

2の2 (2)「複数のグラフから、数値や変化を読み取ることができるか」をみる問題の正答率は、60%を下回っている。誤答を分析すると、ア、ウが多く選択されていることから、グラフの数値や増減を読み取ることはできるが、二つ以上のグラフを関連付けて数値を比較したり、変化の状況を数値を基に具体的にとらえたりする力は十分に身に付いていないと考えられる。今後、複数の事象を比較したり、関連付けたりして資料を読み取る力(読解力)を高めていく指導を充実させる必要がある。その際、扱う資料の数が多くならないように配慮するとともに、教科書に示された資料を取り上げ、児童が家庭学習において教科書を活用して復習できるようにして、複数の資料の読み取り方が確実に身に付くよう工夫する必要がある。

1の2「縮尺を活用して、実際の距離を計算する技能」をみる問題の正答率は、55.0%であり、昨年度の類似問題の正答率を下回った。これは、昨年度の問題が、地図上の縮尺をそのまま当てはめれば解答できたのに対し、本年度の問題は、実際にそのスケールを活用して計算するなどの応用を求めたからであると考えられる。今後は、縮尺や四方位を積極的に活用する場面を授業の中に位置付け、活用できるよう指導する必要がある。実際の指導に当たっては、地図を十分に活用して、主な地図記号や四方位を正しく理解し活用できるようにしたり、観察や調査、総合的な学習の時間等においても地図を活用したりするなど、白地図や地図帳が日常的に活用されるようにすることがより一層必要である。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> 5の1

- 5の1 ゆう子さんは ① で、情報を受け取る方法としての新聞のよさについて発表しました。あなたが発表するなら、新聞のどんなよさを発表しますか。あなたの考えを下の の中に書きましょう。

<結果> 5の1 正答率 74.8% (正答例 略)

<分析>

5の1「情報を受け取るさまざまな方法の特色や活用の仕方について考えることができるか」をみる問題の正答率は、74.8%であり、昨年度の類似問題より正答率が10%程度高くなっている。「思考・判断」の力をみる他の問題においても、正答率は70%~90%の間であり、社会的事象について調べたことを発表するだけでなく、調べたことを基に自分の考えをまとめたり、仲間と課題について考えを交流したりする授業が充実してきた成果と考えられる。しかし、無解答は、5.0%に増加している。(平成17年度 類似問題の無解答2.9%)これは、本年度の問題が、情報を受け取る様々な方法の中で「新聞」に限定して「そのよさ」について記述する課題であったことが原因であると考えられる。今後は、放送局などの事例の学習を通して、わが国の通信についての概要をつかむとともに、「同じような働きをしているものは他にはないか」「新聞の働きでいうと…」など、他に転化できるよう指導することが必要である。また、書くことに対する児童の苦手意識をなくすために、授業の中で、自分の考えを書く時間を十分に確保し、課題に対して見通しをもつことができるキーワードを示したり、仲間の考えを参考にしたりして、自分の考えを表現する意欲が高まるようにする必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るという観点から、指導内容が地域や児童の実態を踏まえ吟味、精選されているか見直しを図る。

- ・学習指導要領の目標と内容を十分に理解し、児童や地域の実態を踏まえ、事例や対象の適切な選択や指導内容の精選、指導時数等の配当が行われているか見直しを図る。
- ・事例や対象を選択する必要があるものについて、例えば、人物を扱った学習では、人物を通して学んだことを日本の産業や国民生活という視点で考え直し、各産業の概要や問題点の理解を図ったり、他の事例に転化できる学び方を身に付けたりできるよう努める。
- ・見学や調査、作業的、体験的な学習を、他教科や総合的な学習の時間等との関連を考慮して効果的に位置付け、それらを通して社会的事象の意味や働きを考える学習となるよう努める。
- ・地図を活用する知識や能力を高めるために、地図を活用する場を意図的に位置付け、方位や縮尺について繰り返し指導し、実際に活用できるようにする。また、家庭等に対しても、旅行の経路を地図を使って確かめたり、テレビで見た場所を地図で探したりするなど、地図に親しんでいくよう働きかけることが望まれる。

(2) 指導方法の工夫改善

問題解決的な学習の充実を図ることで、課題に対して様々な資料等を活用して調べ、考えたことをまとめ表現する学習を行うように努める。

- ・資料活用の技能の段階を具体化し、地図の活用技能や複数の資料を関連付けて読み取るといった読解力を身に付けていく指導を意図的・計画的に行う。
- ・表現する力を一層付けるために、調べたことや自分の考えをまとめ、目的に応じた方法で表現(資料やグラフの作成など)したり、多様な資料を活用して課題について調べ、テーマを設定して自分の考えを記述したり、キーワードを使ってまとめたりするなどの指導をより一層充実させる。
- ・確かな学力が身に付くよう、評価規準や個人カルテ等を活用し、個の学習状況の把握と分析に努め、個に応じた指導・援助の手立てを具体的に指導し、確実に見届ける。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・学習環境の工夫について、我が国の産業や国土に関する社会的事象を児童が主体的に調べ、理解を深めるために、学校図書館やコンピューター室等の整備を進める。
- ・学習環境の工夫について、教室内に日常的に日本地図を掲示し、学習や生活の中で出てくる都道府県等を地図上で確認し、国土や都道府県の位置等についての理解を深める。
- ・学習集団の育成について、自分の考えや思いを素直に表現したり、仲間の意見を共感的に受け止めたりして、仲間と楽しく調べ、考え合うことができるようにする。そのために、個の調べ方や表現の仕方、社会的なものの見方や考え方のよさを教師が的確に価値付け、どの児童も仲間との学び合いに充実感をもつことができるようにする。

